

(別記様式)

令和 4 年度 府立 朱雀 高等学校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>朱雀高校の教育目標・校訓をもとに次のように定める。</p> <p>1 生徒の期待に応える「生徒本位」の学校づくりに教職員全員体制で取り組む。</p> <p>2 生徒に学ぶ主体としての自覚を持たせ、学習に励み、進路を切り拓き、社会で生き抜く力を育てる。</p> <p>3 規範意識を育てて、自らを律し、自主活動を通して他者と協働する力を育む。</p> <p>4 心身ともに健康な生徒の育成と安心・安全な学校づくりを行う。</p> <p>5 開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域との連携を進め、理解と信頼を得る。</p> <p>6 本校全日制に学ぶ生徒が、自らに自信を持ち、明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送るための朱雀プライド計画」を積極的に推進していく。</p>	<p>成果</p> <p>(1) 「生徒たちが自らに自信と誇りを持って明るい将来を展望し、活気のある学校生活を安心して送る」ことを目指した朱雀プライド計画 (制服導入・コース制導入・部活動活性化) 第2ステージ「朱雀 Grow Up Project」を推進。「安心して生活できる」学校への変革に一定の成果をあげることができた。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底により学習意欲の向上が見られ、4年制大学進学率が前年度比 1.7 倍に増加するなどの成果が見られた。</p> <p>(3) 生徒一人一人に丁寧に向き合い、様々な発達課題や障がいのある生徒を、卒業へと導くことができた。</p> <p>(4) コロナ禍の中、学校行事等の実施に様々な制約があったが、文化祭や体育大会の府立体育館での実施計画等、臨機応変に対応。生徒相互の交流促進、社会性や自主性の育成を図ることができた。</p> <p>(5) 部活動加入率は 60% を超え、複数の部活動において全国大会で活躍する生徒もいた。</p> <p>課題</p> <p>(1) 各学年、各コースにおいて基礎学力の定着を図る取組を引き続き充実させる。</p> <p>(2) 生徒の希望進路実現に向けた様々な取組をより充実させる。</p> <p>(3) 「朱雀プライド計画」第2ステージを始動し、地域から高い信頼・期待を持たれる学校へと更に進化を続ける。</p>	<p>1 活気ある学校づくり</p> <p>(1) 生徒や保護者等・地域の期待に応えるため、教職員は生徒一人一人にしっかりと向き合い、厳しくかつ丁寧で手厚い指導を心掛ける。</p> <p>(2) 教職員間の意思疎通や連絡体制を円滑にし、学校施設や環境の充実整備に努め、活気ある学校づくりを目指す。</p> <p>2 主体的な学びと進路実現</p> <p>(1) 生徒一人一人の能力や適性を踏まえた学習の充実を図るとともに、夢や希望の実現に向けた進路指導を充実させる。</p> <p>(2) 探究学習等、「好き」を見つける・「好き」を究める学びを模索するなかで、生徒の学習意欲の向上を図る。</p> <p>3 自律と自立</p> <p>(1) 身だしなみ指導等、ルールやマナーの意義を考える取組を進め、規範意識を醸成する。</p> <p>(2) 学習活動や特別活動をとおして、自己調整力や粘り強く物事に取り組む態度を養成する。</p> <p>(3) 部活動の活性化を推進し、学校に軸足を置いた学校生活を送ることによる充足感を向上させる。</p> <p>4 健康と安全</p> <p>(1) 健康安全教育を充実させ、自他のいのちを守る安全意識を育成する。</p> <p>(2) 生徒一人一人の個性を尊重し、人を思いやる心を育み、人権意識を育成する。</p> <p>5 地域に開かれた学校づくり</p> <p>(1) 地域と連携した取組を積極的に推進する。</p> <p>(2) 「朱雀プライド計画」により変化してきた朱雀高校の良さを伝える広報活動をより一層充実させる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	課題の解決に向けた組織的な学校運営体制の充実	・魅力ある学校づくりを目指して、校内分掌の再編による学校体制の更なる充実及び活性化を図る。	B	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校改革の進捗状況を点検するとともに、学校体制の活性化に向けて積極的に取り組んだ。 ・教職員間の情報共有や意見集約におけるクラウドシステムの活用を推進した。 ・校務組織の在り方について不断の見直しを継続し、更なる学校改革推進に繋げたい。
		・ICTの効果的活用により迅速かつ適切な情報共有を図る。	A		
		・課題に即応した柔軟な組織運営を行う。	A		
	校務組織の見直しによる分掌機能の整理・充実	・教職員組織の見直しによる学校運営の充実及び活性化を図る。	B	B	
		・効果的校務運営のために分掌機能の整理・充実を図るとともに分掌間の連携を図る。	B		
教務部	学習への意欲を高め、生徒の学力充実・学力保障に努め、全ての生徒の進級・卒業を目指す。	・新学習指導要領の趣旨に合致し、本校の教育方針に沿った教育課程の完成に努める。 ・研究授業や研修会を充実させ、教員の教科指導力の研鑽に努める。	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の研究が教科単位でのものにとどまっている部分があり、全体での取組とする点に課題が残った。学習端末の活用は各教科による工夫がみられた。 ・年間を見通した計画立案において、全体のバランスを整えることに課題が残った。 ・部員それぞれが担当業務には適切に取り組んだが、分掌全体としての効果的組織運営を一層進める必要がある。
	授業・行事計画の円滑な進行を図るとともに行事等の整理・精選を行い、将来を見据えた効果的な教育活動計画を立てる。	・年間授業時数を適切に管理し、行事等の精選を図りながら、授業時数の確保に努める。 ・シラバスの充実を図る。	A B	B	
	校務システムの適切で効果的な運用を図る。	・将来を見据え、システムの理解を教員全体で共有できるようにする。	B	B	
生徒指導部	自主活動を通じた生徒の自立と自治能力を持つ生徒集団の育成	・生徒会をサポートし、生徒の自主自治の力を育成するとともに、委員会活動の活性化を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナを意識しながらの学校行事等の運営に工夫を図った。 ・生徒主体・生徒参画による学校行事や学校説明会等の運営を工夫。生徒の成長に一定の効果がみられた。しかし、効果が一部の生徒へのものにとどまっている部分もあり、生徒全体の自主、自治の力を伸ばすには、更なる工夫が必要である。 ・部活動を通して学校生活を充実させる生徒が増えた。 ・学校全体としての落ち着いた学習環境を提供できている。個別指導が必要な案件において、関係学年及び分掌との迅速な連携を図った。 ・朝の遅刻等、生活習慣確立に課題の
		・生徒が高校生活の過ごし方について振り返る機会をつくる。	B		
		・部活動の加入率向上を目指す。また、部活動代表者会議等の指導を通してリーダーとしての能力を育てる。	B		
	生徒の規範意識の醸成。また、落ち着いた学習環境のもと、安全・安心の場をつくる。	・特別指導の指導件数0を目指し、各分掌・教科と連携をとる。	B	B	
		・全校体制で頭髪指導を行うことにより、学校のルールを守る意識を高めるとともに、高校生らしい身だしなみについて考えさせる。	B	B	
		・朝の遅刻指導等により、遅刻・欠課を減少させる。	C		
	生命を大切にすることを育成し、実践させる。	・交通ルール遵守の啓発や朝の校門立ち番での交通安全についての声掛けをする。	B	B	

		<ul style="list-style-type: none"> SNS使用のマナーについて考えさせる機会を設ける。 	B			<ul style="list-style-type: none"> ある生徒が散見される。課題に応じた指導について、工夫を重ねたい。 交通ルール遵守やSNSの適切な使用について、HR等での啓発指導に努めるとともに外部講師を招いての講演会を実施。
進路指導部	進路を切り拓く力の伸長と適切な進路選択の指導	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習時間拡充に向けて、学習週間を設定する。 	B		A	<ul style="list-style-type: none"> 学習週間を設定するなどして学習時間拡充を図ったが、十分な学習時間確保に課題は残った。 保護者向け「進路通信」を配信（年間8回）するとともに、夏の面談時に配布資料を準備した。 入室退室時や就職指導の中で挨拶等を指導し一定の成果が認められた。 計画に基づいて進路学習を実施し、仕事観を深めさせた。 面接指導や租税教室、就職内定者指導等で外部講師を活用した。 租税教室や就職内定者指導等を通じて、自他の人権が尊重できるよう意識を高めた。
		<ul style="list-style-type: none"> 保護者向けの情報提供に努め、進路選択をサポートする。 	B	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣やマナー・ルールについて指導する。 	A			
	仕事観の深化と生きがいのある人生構築への指導と援助	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育指導計画に基づき、仕事観を深めさせる。 外部講師を活用し、社会人に必要な心構えや知識を身につけさせる。 	B	A		
	自他の人権の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 働く者の権利について学び、自覚と権利意識を持って就職活動ができるように援助する。 	A	A		
保健部	健康な心と身体の育成	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断や健診結果の通知及び治療勧告の強化を図る。 	A		B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染予防対策を講じ、健康診断等の保健部行事をすべて実施することができた。 日常の清掃では不足する部分について、考査や説明会前に大掃除を実施することで校内美化を推進したい。ゴミの分別やゴミ袋の使用数削減、乾式トイレの清掃については、引き続き改善に向けて検討していく。 教育相談会議にあがってきた生徒については、教職員全体での共通理解を図っている。個々の生徒の状況把握や課題に応じた対策について、引き続き研究していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス対応を含めた感染症予防対策に努める。 	B	B		
	学校環境衛生の促進	<ul style="list-style-type: none"> 重点清掃箇所を設ける。 ゴミの分別収集の徹底とゴミ袋の効率的な使用について検討する。 	B	B		
		<ul style="list-style-type: none"> トイレの改修に伴って、乾式トイレの清掃方法を検討する。 	A			
	生徒の心の健康への理解と対応	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や教職員のニーズに合った教育相談活動を推進する。 スクールカウンセラーや教職員との連携を図り共通認識を深める。 	B	B		
企画推進部	総合的な探究の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間において、1年生で「京都伝統文化探究」、2年生で「京都SDGs探究」を実施し、主体性や発信力、社会人基礎力を育成する。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間では昨年度の流れを引き継ぎながら、中間発表を取り入れるなど、アウトプットの機会を増やした。また、学校外部の人材

		<ul style="list-style-type: none"> 外部人材等を活用しながら生徒の視野を広げる取組を充実させる。 	B		<p>を活用して、フィールドワークの充実をはかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講演会等については、感染拡大防止の観点から機会が減少した。 学校説明会では、早い段階からの部活動見学・体験を実施。また、在校生による司会や学校紹介など在校生参画の場を設定し、参加者から好評であった。 中学生や保護者に本校の魅力を伝えるために、実施方法や内容については、更に工夫が必要である。 中学校や塾へは、昨年度に卒業した「朱雀プライド計画1期生」の進路実績や生徒の状況を中心に広報活動をおこなった。 中学校や塾への訪問の時期や頻度、内容については検討が必要である。
	計画的な広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会や学校公開を適切な時期に実施し、広報活動をさらに充実させる。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> 明確な目的意識を持つ入学者を増やすために広報の仕方を検討する。 	C	B	
第1学年部	<p>基本的な生活習慣を確立させると共に、規範意識を醸成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 頭髪や服装等みだしなみ指導に努め、落ち着いた学習環境を確立する。 遅刻、欠席を減らし、授業への取り組みを促進する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 長期に渡る行動制限の影響か社会性の成長に課題がみられる。来年度は多彩な行事を通して社会性の育成を図りたい。 3学期に5週連続で進路HRに取り組み、進路に対する意識付けを深めることができた。来年度はこれを元に早期に進路志望を設定させ、進路実現に向けた努力を促進させたい。
		<p>自主的活動を通じた協調性と自己尊厳に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 部活動やHR活動に積極的に参加させ、学校への帰属意識を醸成するとともに自己肯定感を高める。 	B	
第2学年部	<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分掌・教科・家庭との連携を密にし、頭髪・服装等の身だしなみ指導に努め、落ち着いた学習環境を整える。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は生活指導の趣旨を理解し、学校生活に取り組むことができた。 多くの生徒が授業に積極的に取り組むことができた。遅刻や欠席が目立つ生徒に対しては担任が継続して改善するよう指導に努めた。 HR活動や学校行事を通じて他者との関わりを深め、積極的に行動する意識を高めることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席をなくし、積極的に授業に取り組ませる。 	C		
	<p>進路に対する意識の育成と目標の明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業等を通して、多様な進路に対応できる基礎学力の定着と伸長を目指す。 	B	B	
		<ul style="list-style-type: none"> HR活動等を通して、進路意識を高め、適切な進路目標の設定を目指す。 	B		
	<p>自主活動を通じた協調性と自己尊厳の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自主活動を通して自尊感情を育て、自ら考えて行動できる習慣を身につけさせる。 	B	A	
		<ul style="list-style-type: none"> 研修旅行に向けて、「周囲に心を配る、他者を思いやる」といった協調性を育む。 	A		

第3学年部	規律ある態度と基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 無断欠席や遅刻の減少を目指すとともに、授業規律を守り、学習に取り組む態度を育てる。 規範意識に基づいた行動を促し、成人を迎えるにあたっての社会常識を身につけさせる。 	C	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 大半の生徒は、積極的に授業に取り組めたが、特定の生徒の遅刻や欠席が改善できなかった。 特定の生徒が、繰り返し指導を受けた。 進学希望者の補習や模擬試験への参加数には課題があったが、面談等を繰り返し、概ね進路実現できた。 生徒の多くが、3年間部活動を続けられた。 みんなで協力し、学校行事を成功させることができた。
	進路目標の明確化と進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 面談等を通じて、生徒の思いに耳を傾け、他分掌と連携し、生徒・保護者への情報の提供を適宜行い、生徒個々の進路実現に努める。 進路実現に向け、補習や模擬試験への参加を促す。早くから進路意識を高めるよう指導する。 	A	A		
	自尊感情の育成と人権意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 自主活動を通して自尊感情を育てるとともに、他者に対する思いやりの精神を高め、人権意識を高揚させる。 	A	A		
事務部	学校施設や環境の充実に努め、活気ある学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容や方法の変化に対応できる施設設備の充実に努める。 計画的に老朽施設設備の改修に取り組む。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> トイレ改修、空調整備（ミーティングルーム、物理講義室）等、施設整備に努めた。 学生支援機構に係る説明等の機会を捉え、制度の周知を図った。
	生徒の就学を支援するため、適切に対応する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度の周知を図るとともに、適切に活用できるよう努める。 	B	B		

学校運営協議会による評価	<p>制服導入や部活動の活性化により、学校の印象が大きく変わった。学校全体の特色化、魅力化も大切だが、生徒に寄り添った指導も継続して欲しい。地域にあっても生徒が挨拶をしてくれ、全体に良い雰囲気を感じられる。新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された3年間であったが、次年度以降は地域社会との連携・交流を再開する中で、生徒に自信を付けさせ成長を促して欲しい。</p>
--------------	---

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 学校改革「朱雀プライド計画」には一定の評価を得ている。様々な取り組みの成果を常に検証しながら、生徒や保護者等・地域の期待に応える学校づくりに引き続き努めたい。 コロナ禍においては、地域と繋がる機会を設定しがたかった。生徒は広域から通学しているが、地域との繋がりを改めて大切に、生徒の成長に繋げたい。
---------------	--